

じんかん う  
人間に生まれて “つながりを生きよう” 299

私が仏さまを見るのではなく仏さまが私を見ている

今年の永代祠堂経会には皆様のご協力により、志、御布施、お参りのお陰で無事執行することが出来ました。毎回お参りいただいた方も仕事を休んでお参りいただいた方にも心より感謝しております、ありがとうございます。皆様からいただいた御懇志は真敬寺行事の運営（お花、講師費用等）に使わせていただきます。

五月後半より皆さんへの案内文作成、配布、お願い、庭木の防除、剪定、草むしりや、風防サッシ窓拭き、春から用意していただいたお花の立華等、念入りに準備させていただきました。後ほど電話である門徒さんから「お寺の三大行事？の一つが終わってご苦労様でした」と労いの言葉をいただきました。

六月前半は梅雨独特の曇りがちではありましたが、以外と涼しく過ごさせていただきました。しかし後半二十三日には三十度を超える日が続き季節外れの猛暑となりました。

七月十七日は井波別院法物巡回です、別院虫干し法要が近づきなんとか協力できないかと皆さんと相談して企画しました、虫干し期間中の昼食の（鯖ずし券）も頂けます。

また、二年ぶりに暁天講座を開催します、コロナ下を通して状況も変わりつつありますが福光の僧侶の布教の場としての歴史があり大事にしていきたい行事です、今回は中島憲証さんに東日本災害地福島作業員体験報告をお聞きします。



### 7月真敬寺行事予定

3日(日)	真宗教室	午後2時
4日(月)	正信偈の会	午後2時
10日(日)	日曜学校	午前9時
17日(日)	定例聞法会	午前 午後
	井波別院巡回布教	
	法話 菊池正見さん	
24日(日)	日曜学校	午前9時
27日(水)	暁天講座	午前5時

それは「南無阿弥陀仏」が書かれてあるこのお経（観経）は、どうあつても私をすくおうとされていることが書かれています。

祠堂経のお説教から

## 祠堂経会の聞書

滋賀県東近江市玄照寺住職

瓜生 崇さん



観無量寿経の特徴は御経の中に「南無阿彌陀仏」という言葉が出てくることなんです。他の大無量寿経や阿彌陀経にはこの言葉は出てこないんです。それとこの御経ではじめて「南無阿彌陀仏」によって救われていく人が描かれています、非常に大事で、南無阿

彌陀仏のルーツです。南無阿彌陀仏ですくわれる原点がこの御経に書かれてあるのです。

親鸞聖人、法然上人も、師匠の善導大師もこの「観無量寿経」をとつても大事にされました。

まず、この観無量寿経の題名に「観」の字があります、「みる」です。

私たちはいろんなものを見ていますが、一体、何を見ているのでしょうか。仏教では私たちには真実（本当のすがた）をありのままに見ることは出来ないと思われているのです。私たちが見ているものは、全部私のこころが作り上げた幻想の世界だと言われているのです。自分の心の世界を見ているだけだと言われるのです。

私の妻も、子供の見る妻と、門

徒さんが見る妻と、友人が見る妻と、夫が見る妻と、一人一人違いがあります、その人にとつての妻はその人ごとの心の中に映っている妻を心の中にみているのです、妻をそのままありのままで見ている人は誰もいません。

先日、棟方志功展を見に行ってきたのですが、あの方の見る世界と私たちの見る世界は全然違っていますね、ゴッホやピカソもそうですよね。不思議ですね。

今私はここで阿彌陀さんを見ています、当然皆さんも同じ阿彌陀さんを見ていると思っただけです。私が見ている阿彌陀さんと皆さんが見ている阿彌陀さんが同じかどうかはまったくわからないですね。それぞれに違うのですよね。

人間は朝から晩までいろんなことを考え、いろんなことを想像しています、私は今まで四十八年間生きてきましたが、無数のことをいろんなことをひっきりなしに思ってきました。自分の心をパンパンにして、何も思わないでいようとしてみても、何も思わないでいようとしてみる思い出さずにはいけません。

人の心は何を考えているかはわからないでいます、家族ともにもいっても何を考えているのかはわかりません。本当にわからないです、それを「あんなことを言った、こんなことを言われた」と心の中で自分が勝手に分別している、狭い世界の中にとお釈迦さまは指摘して下さいます。

自分を中心にして物事を分け隔てている、孤独な世界をじぶんが作って居ます。人は生まれてひとりぼっちの世界に生きて、ひとりぼっちの世界を終わっていく、お釈迦さまはまた輪廻の世界だとも言われ、親鸞聖人は生死流転、迷いの世界であり、「生死いずべき」とも仰っています。

親鸞聖人は、こんな狭いところを抱えていきたくない、今こそ、この迷いの世界を終わらせ、流転する迷いの世界を出たいと思ひ、私のところを超えた世界に生まれたいと願ひ求めて本当の世界に目覚めていきたいと思つたといわれています。必死になつて道を求めてきたけれども、間に合わなかつたといわれ

ています。

観無量寿経の観は我々が見ている世界ではないのです、我々が良いと思えば良いように見える、都合の良いように見えるのです。お釈迦さまは三十五歳の時に本当の世界を見たと言います。それがここで「無量寿（本当の世界）」無限に儂く消えることない、自分の思いを超えた永遠の世界を見たと言っています。



善導大師は、この御経のことを「無量寿経観経」と仰いました。それは私が無量寿を見るのではなく阿弥陀さんが私を見

ている御経という意味です。

さらに親鸞聖人は無量寿仏観経と仏の字を足し、阿弥陀さんが私の姿を見ている御経だと残されています。阿弥陀さんが私の姿を見て「南無阿弥陀仏」を残して下さったのだと、これまでの私が阿弥陀さんを見ることから百八十度ひっくり返して、阿弥陀さんがこの私を見ていると受けとめられたのです。

私はここで浄土を見ることも出来なければ、自分の生き様を変えることも出来ない、仏教をしつかり求めて生きることが出来なければ、良い行いをして生きることが出来ない、自分に出来るのは阿弥陀様の願いに応える。ただ「南無阿弥陀仏」の念仏を申すことしかないと受けとめられたのです。なので阿弥陀さんが私のために選んで下さったのが「南無阿弥陀仏」なんです。この御経にはどうあっても私をすくおうとされていることが書かれてあるのです。

先月の行事

五日(日) 真宗教室

六日(月) 正信偈の会

十二日(日) 日曜学校

十三日(月) 門信徒追悼会

祠堂経会

十四日(火)

法話 瓜生崇さん

十九日(日) 日曜学校

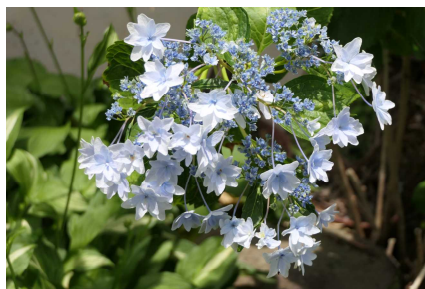


日曜学校の子供さんが花まつり子供絵画書道展に出品しました。

今年も門徒さんからいただいた岩千鳥(イワチドリ)が開花しました。



こちらも門徒さんからの寄贈のあじさいです。毎年風雪に耐え開花しています。



発行 〒939-1664富山県南砺市竹内440

真宗大谷派(東) 小塚山真敬寺 宮地修

0763-52-0196 携帯電話090-3760-5692



ホームページを開設しました